

令和5年度第2回四日市市総合教育会議

令和6年1月22日

13時00分 開会

1 開会

○荒木政策推進部長 定刻となりましたので、今年度2回目の総合教育会議ということで開催させていただきます。

私、司会をさせていただきます政策推進部長の荒木です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題でございますが、事項書でございますように、近年の教育を取り巻く変化と今後の教育のあり方、四日市市総合計画中間見直しを見据えてということと、もう1点が小規模特認校制度の導入についてということで、こちらは報告事項でございますが、この2点でございます。

全体で14時20分を目途に終了させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本会議でございますが、先ほども申しましたが公開でございます。傍聴や記者による取材等がある旨ご了承くださいと思います。

それでは、事項書に従いまして進めさせていただきます。

2 近年の教育を取り巻く変化と今後の教育のあり方について

～四日市市総合計画 中間見直しを見据えて～

○荒木政策推進部長 まず1つ目でございますが、近年の教育を取り巻く変化と今後の教育のあり方ということでございます。

本市の四日市市総合計画でございますが、こちらは、令和2年度から令和11年度の10年間を計画期間といたしまして、令和7年度から後半5年間に差しかかることから、前半5年間の取組や進捗状況、また社会情勢の変化等に応じて、来年度に中間見直しを実施していくこととさせていただいております。

その中で、教育や学校を取り巻く社会情勢の変化といたしまして、コロナの影響で対面の交流機会の減少や、マスク生活、給食時間の黙食など、子どもたちのコミュニケーションという面からは懸念される状況にもなっております。また、経済活動の停滞によりまして、

家庭の生活に不安や悩みを抱える家庭が子どもたちに与える影響も少なくないと思われます。さらに、こども家庭庁の創設でございますとか少人数学級の推進のほか、生成A Iの教育現場への導入の是非など、子どもたちを取り巻く環境は様々変わってきてございます。

本日は、本市の総合計画中間見直しを見据えた今後の教育行政を考える上で特に意を配すべきと考えられる視点やポイントなどについて、委員の皆様から御意見をいただければと思っております。

それでは、まずは事務局より資料の説明をお願いいたします。

○矢澤政策推進課長 政策推進課の矢澤です。どうぞよろしくお願いいたします。

私から、A 3の資料の前半部分についてご説明させていただきます。

1番で、近年の教育を取り巻く変化と今後の教育のあり方というところでございます。

(1)にありますように、総合計画、先ほど部長からありましたように令和2(2020年)年度を初年度とした10年間の計画となっております。

こちら、3層の構造になっておりまして、まず、基本構想。下にイラストで模してありますが、基本構想の一番上の部分、こちら10年間の計画期間というところで、将来都市像、基本目標を示すもので、10年間のまちの方向性を明らかにするものというところです。

今回見直しを行おうとするのが、下のブロックで青色の基本計画の部分です。構想にある将来都市像を実現するための施策の方向性を示すものというところで、特に大きく力を入れて取り組むべき課題、分野横断型の戦略プランとして、重点的に行うものを重点的横断戦略プランというところで記しております。特にこちらは後半、令和7年度以降の分を今回策定していきたいというところでございます。

分野別基本政策として、まちづくりの8つの分野におきまして取り組むべき政策を位置づけ、取組を推進していきます。

こちらについては、10年間の計画期間というところでございますが、社会情勢の変化に合わせて見直しを行っていくというところで、2ページをご覧くださいよろしいでしょうか。

こちらに分野別基本政策と重点的横断戦略プランの関係を記してございますが、一番左側に分野別基本政策が8つ、1番の子育て・教育から、8つ目の健康・福祉・医療まで、この基本政策を軸に、次、右側ですが、重点的横断戦略プランというところを掲げております。

それぞれ4つの都市像、子育て・教育安心都市から始めまして4つ都市像があると。これが基本構想に記した都市像でございますが、こちらを重点的に進めていくプランが右側に

なっております。

特に教育で関わる部分としましては、プロジェクト01というところで、「令和の学び！基盤となる学力・体力・能力向上プロジェクト」。さらに、赤の点々で囲っておりますが、こちらの具体的な取組を令和7年度からつくっていきたいというところがございます。現行でも、①でございます「新教育プログラム」による夢と志を持った子どもの育成とか、教育現場のICTとか、教育に関わるプロジェクトはこちらで記しているところがございます。

戻っていただきまして、1ページをお願いいたします。

こちら、右側、(2)で中間見直しの考え方というところですが、先ほどご説明いたしました重点的横断戦略プラン、分野別基本政策を対象に見直しを行ってまいります。繰り返しになりますが、重点的横断戦略プランが来年度までということですので、前半の5年度の特に関前半までの取組を検証した上で、令和7年度からの後半の取組の整理、具体的な事業というのをつくっていきたいというところがございます。

先ほどの8つの分野別基本政策は10年間ということではございますので、社会経済状況の変化を見ながら、必要に応じて見直しを行っていくといった作業を来年度行っていきたいというところがございます。

簡単ですが、私からは以上です。

○前田教育監 教育監の前田でございます。

私からは、(3)子育て・教育をめぐる変化からご説明申し上げます。

これからの中間見直しに向けまして留意すべき点として、①から③の3点を挙げてございます。

なお、この①から③の各項目に関わっての本市教育の現状と課題につきましては、別とじの参考資料をお配りさせていただいております。こちらには具体的なデータをグラフや表にてお示しをしておるところでございます。参考に、併せてご覧いただければと思います。

では、この1ページの右側、(3)子育て・教育をめぐる変化のところ、まず、①新型コロナウイルス感染症の拡大についてでございます。

先ほど荒木部長からもございましたが、子どもたちにとっては、コミュニケーション能力や体力低下の懸念、また、家庭におきましては、家庭を取り巻く環境が変化する中で、子どもたちに与える影響も少なくないと考えられるところがございます。また、学校・地域・家庭のそれぞれの状況が変容する中で、これらの連携のあり方や取組にも影響を与えてまい

りました。

ただ、その一方で、新型コロナウイルス感染症の時期にプラスの変化といえましょうか、児童生徒1人1台端末の配備など、ICT等を活用した教育のDX化が加速されたという面もございます。

続いて、②教員の働き方改革のさらなる推進についてでございます。

全国的に教員不足や教育的ニーズなどが多様化・複雑化する中で、本市におきましては、長時間勤務の教職員数について一定の改善は図られてはきているものの、依然として多いこと。また、講師確保についても難しい現状がございます。これに対しまして、教育や校務のDX化、チーム学校、部活動の地域移行等の取組を通じて、児童生徒の充実した学びの提供のみならず、教師が教師でなければならないことに注力できる体制を整備して、教職の魅力の向上やその発信を併せて進めていく必要がございます。

続いて、③こども家庭庁の創設に関してでございます。

令和5年4月にこども基本法が施行され、こども家庭庁が発足いたしました。また、こども基本法に基づき、令和5年12月にはこども大綱が閣議決定されました。こども大綱では、全ての子ども、若者が身体的、精神的、社会的に幸せな、ウェルビーイングな状態で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現に向けて、教育施策との連携が求められております。

この子育て・教育に係る国の方針等につきましては、資料の3ページをご覧ください。

初めに、3ページ左側、①の第4期教育振興基本計画についてでございます。

この計画は、将来の予測が困難な時代において、教育政策の進むべき方向性を示す羅針盤となる総合計画として位置づけられており、コンセプトとして、持続可能な社会の創り手の育成及び日本社会に根差したウェルビーイングの向上を掲げ、今後の教育政策に関する基本的な方針として、①から⑤の5つを示しております。

政府は、この計画に基づいて各省庁が連携して今後の教育政策を着実に推進するとしており、地方公共団体に対しましても、本計画の方針や施策を実効性のあるものとするために、地域の実情に応じた適切な対応を期待するとしております。

続いて、右側、②のこども大綱についてでございます。

こども大綱は、こども施策に関する基本的な方針や重要事項等を一元的に定めるものとして策定されました。こども施策に関する基本的な方針として、日本国憲法、こども基本法及び子どもの権利条約の精神にのっとり、①から⑥の6つを示しております。

幾つかピックアップしますと、まず①では、子ども・若者を権利の主体として認識し、多様な人格・個性を尊重し、今とこれからの最善の利益を図るとしており、子どもや若者の自己選択・自己決定・自己実現を社会全体で後押しするとしております。

②におきましては、子どもや若者、子育て当事者とともに進めていくとしており、子どもや若者が意見を形成しその意見を表明することや、社会に参画することが社会への影響力を発揮することにつながるものであり、大人は子どもや若者の意見を尊重するとあります。

また、⑥におきましては、施策の総合性を確保するとともに、関係省庁、地方公共団体、民間団体等との連携を重視するとしております。

その下の子ども施策に関する重要事項は、「子どもまんなか社会」を実現するための重要事項をライフステージ別に提示しており、中でも、学童期・思春期を自己肯定感や道徳性、社会性を育む時期、自分のアイデンティティを形成していく時期とし、質の高い公教育の再生や居場所づくり、心のケアやいじめ防止、不登校の子どもへの支援などを挙げております。

これから行う四日市市総合計画の中間見直しに当たりましては、今ご説明申し上げた子育て・教育をめぐる変化や本市教育の現状と課題を踏まえて進める必要があると考えてございます。

私からの説明は以上でございます。

○荒木政策推進部長 説明は以上でございますね。ありがとうございます。

デジタル技術の活用とか、また、不登校やヤングケアラー、児童虐待というようなキーワードが出てきたと思うんですが、事務局からの資料説明を踏まえまして、皆様からご意見をいただければと思っております。

いつものように伊藤委員からいいですか。よろしいですか。お願いします。

○伊藤教育委員 見直しを見据えてということをおっしゃって、自分もこの総合計画であるとかこれに付随するような資料も見させてもらいながら、感じているところを幾つかお話しさせていただきたいと思っております。

とにかくこの計画であり、教育ビジョンもそうですけれども、始まった途端にコロナウイルス感染症でのいろんな対応であるとか、それへの影響というのはありました。

今までも幾つも紹介されているんですけれども、その中でも私が強く感じているのは、人と人とのつながりがあってこそ子どもは育つということを改めて感じたということです。人と人とのつながりというのは、子ども同士、子どもと教師であったりまたは指導者、子どもと保護者、子どもと地域の方といった、いろんな子どもを取り巻く人々との関わりで、子

どもは対話もあり、いろんな関わりがあって高まっていくということが制限されておったのは非常に大きいのではないかなと思っています。

そして、それとともに感じたのは、子どもを育てる人の存在の確保、人的環境をしっかり整えていくことがこのことを進める上では非常に重要な部分であると。また、これが浮き彫りになってきたのではないかなと思います。

市の総合計画とかビジョンとか学校づくりビジョンを示す考え方、こんなものを関わる者が、特に指導者であり関わる人たちが共有して、それをもとに何をすべきか、また、自分が行動できることは何かということ把握しながら、そういうふうを考えて子どもたちを育ててほしいという働きかけをしっかりしていくことが必要になっていく。今までもってきているんですが、さらに必要になるのかなと思います。

あわせて人材のこと。人的環境と言いましたけれども、人材発掘とか育成を進めないところの取組は進まない。今後非常に大事になってくると思います。例えば、コミュニティスクールを推進する地域のリーダーとかコーディネーター、または部活動指導者とか協力員、または子どもの居場所づくりに関わるような人たちが研修できたり、また、育成体制が整えられるということ。その中には、プログラムも確立していきながら、人材の育成システムをつくっていくということを一層強化していくべきではないかなと思います。

これは、教育に関わるといっても、教育委員会だけでできることではなくて、市全体としていろんな、横断的な視点であるとか協力体制をもって進めていただけたらと思います。

こういったことを進めていく中で、教育とか子育てを通じて人と人のつながりがさらに密接になったり、地域づくりにつながったりということになっていきますので、人ということについては今回特に感じました。

2つ目は、総合計画の中にも、重点的横断戦略プランのプロジェクト01の中に、先進技術に対応した教育現場のICT化というのを挙げていただいています。この教育DXの推進はぜひとも進めていく必要があると思います。

四日市のGIGAスクール構想を実現するために、環境整備について四日市市を挙げて進めていただいたというのは本当にありがたいなと思います。既にICTの環境整備から有効活用の段階に入ってきていると思っていますので、個別最適な指導であるとか、対話的な活動への活用とか、授業をはじめ教育の手法や手段の改革、いわゆる教育そのものの改革、授業の効率化とか省力化などの働き方改革といったものの視点でこれまでの進み具合の課題を分析して、この取組をさらに進めていく必要性というものが先ほど言いましたように

あると思いますので、この分野というのは本当に日進月歩というか、本当に加速度的に進んでおりますので、こういうことを見据えながら、GIGAスクール構想を着実に進めるために、環境整備の充実については本当に市に、財政面も含めていろいろ支援していただくということになってくるとは思いますけれども、ぜひともこれはいろんな意味で進めていくのに不可欠なものとして、さらに認識を改めたいなと思っているところです。

それから、これは教育そのもののことですが、新教育プログラムのバージョンアップということぜひ進めていただきたいということです。

新教育プログラムというのは、いわゆる本市が進めようとしています、子どもたちの姿として、生きる力とともに生きる力というのを育てたい。時代の状況に応じて、その中でも特に重要になる資質能力として、言語能力、問題解決能力、情報活用能力、この3つを挙げて、これをしっかり育てるための一つの独自のプログラムとして出されてきたものだと思うんです。

学校では、現行の学習指導要領であるとか令和の教育といったものを進めるために、この新教育プログラムを組み込んだ実践に取り組まれているということだと思うんですけれども、やはり現場の実践状況を分析して、しっかり歯車がかみ合っているのかということを検討して、バージョンアップを図ってほしいなど。

例えば、自分が歯車と言いましたのは、本市が10年以上前から問題解決能力を育てるためのことを独自に進めてきているという状況があります。これが新教育プログラムとどうマッチングしているのか、現場でどう捉えられているのかというのはちょっと疑問になるところもありまして。そういった意味では、そういったものも整理しながら、現場が共感を持って、市は確かにこういうことを進めることを大事に感じているし、自分たちも本当にそれを進めようという視点に立って進めていけたら、より子どもたちの力につながるとは思いますので、この点は、教育委員会の中ということが中心にはなるとは思うんですけれども、ぜひしっかり。これは計画にも位置づけていただいているものですから、そういう形で進めていきたいなという、これはいきたいなと感じています。

ばらばらになりましたけれども、感じている幾つかについて話させていただきました。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

人の確保という意味では、教員不足とかいろいろ言われていますけれども、それだけにとられず、全部というイメージでおっしゃって。

○伊藤教育委員 そうですね。子どもを取り巻く、教師だけではないと思います。教師は当

然いなければならないものですが、部活動も含めていろんな意味で支援していただく方。子どもが放課後でいろんな場所とかもありますから、そういったことをやはりしていかないと、こどもまんなかどうこうという、先ほど大綱にもありましたけれども、そういうライフステージに合った中のものを充実させていくためには、やはり関わる人たちを発掘してこそ思っております。

○荒木政策推進部長 どちらかというと、関わる人たちですね。

○伊藤教育委員 そうですね。

○荒木政策推進部長 人材の発掘とか育成とか。

○伊藤教育委員 はい。育成とかそういう視点で今後進めていかないと。一気にはいかなくても、こつこつやっついていかないと、子どもを育てていこうという機運の醸成にはなかなかなりにくいんじゃないかなと思います。

○荒木政策推進部長 環境整備という意味では、デジタル化、DXの推進という意味では、本市も環境整備に全市的に取り組んでおると私は思っておりますが、引き続きというイメージ。

今、活用の時代に入っているということですが、その辺の不安というのはあって。結構日進月歩で変わっていったので、それを本当に教育現場で使い切れているのかみたいなところはやっぱり不安として。

○伊藤教育委員 特に個別最適化とかとなると、DX化の目標は、やっぱり個に対応した教育の実現みたいなところが強みで、そのあたりが今どう活用されているか。いろんなものは、Zoomなんかにもいろいろ盛り込まれたものが示されているんですけども、それが本当に有効になっているかというのと、さらに有効にするためにどうしていくかという充実が必要だと思うんです。

○荒木政策推進部長 新たなステージというか、その辺のステージですね。

わかりました。ありがとうございます。

豊田委員、よろしく申し上げます。

○豊田教育委員 新型コロナウイルス感染症の拡大ということに象徴されますけれども、今後もまたこういうことって起こり得る、また形を変えて起こってくると思うんです。それに対して、今回のことを社会が学び、子どもたちの教育をちゃんと担保できるようなシステム。それが何かというと、ちょっと難しいかなとは思いますが、そこはすごく感じております。

人材育成の中とか教員の確保とか地域の確保という中にもあるんですけども、もう一つが、みんながちゃんと学べるようにというところで、医療的ケア児の方のサポート。いつもそのサポーターが足りないというのも、何人そこを確保すればいいかということがあるので、確保が難しいとかという問題も議論に上がったりしてきているかと思うんですけども、そういう方も含めて、皆が平等に学べるためのシステムであったり人の確保であったりというようなことがひとつ要るのかなと。そこにもちょっと力を入れていただきたいかなとは思ったりしています。そこはやっぱり教育委員会だけじゃなくて、ほかのところもつながっていくことになるのかなとは思っています。

それから、デジタルでつながることは非常に望ましいことでもあります、やっぱりあくまでもツールとしてちゃんと適正に使えるようにということと、そのために先生方が大変な思いをしないようにとも思います。

先生方、やっぱり子どもたちとのつながりの中でちゃんと展開をしていきたいというのに、こっちでその準備に追われることがないような環境づくりをしていけるといいのかなとは思いますが、講師の確保ができずに四日市の少人数学級ができない。これが何年後かにできるのか、なかなか厳しい状況かなと思うと、これに代わるというか、それと同じぐらいの何か、四日市の教育の中では子どもたちに少人数でやろうとしていたことの教員が足りないということでできませんでした、お金をつけてもらってもできませんでしたという状況であれば、そこに代わる何か。何かがちよっとわからないですけども、いい仕組みができないのかなと。

やっぱりそれがしっかりと、子どもたちが学ぶことが楽しい、考えることが楽しいというふうにしていける四日市ならではの教育につながるような。人がいないからできませんという繰り返しではなくてというところにいかなきゃいけないかなとは思ったりしています。

あとは、例えば新教育プログラムでこういきますとか、それをまた変えてこういきますという、現場が混乱して。結局やりたいことがちゃんと伝わらないとかいうことにならないような配慮がないと、先生方もまた振り回される感になってしまって、指導することの楽しみがなくなってしまうというのと思っています。

同じような内容ですが、以上です。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

結構やっぱり現場の先生方も大変というか。いろいろシステムが変わったり、DXの推進とかいうことかなと思うんですけども。

あと、本市ならではの30人学級に代わるものとして、これは意見としていただいたんですけれども、その辺に代わる何か独自の、四日市ならではの。

○豊田教育委員 30人学級ができれば、それは絶対にやってほしいとは思うんですけれども、やる気はあるんだけれどもできないからって延ばしていくなら、現場としても、保護者としても、何だみたいになっちゃうので。

○荒木政策推進部長 それに代わるもの、先生不足に対応するという意味でも、来年度システムを入れることになっていると思います。少しでも補完するという意味で。

ただ、環境はさることながら、教育のソフト面で四日市ならではのこれに代わるものが。

○豊田教育委員 なので、やっぱり先生じゃない仕事を外出しにできるようにすることだけでも、随分変わってくるのかなとは思ったりするんですけれども。

○荒木政策推進部長 大分やってきてはおるんですけどね。サポーター業務であるとか。

○豊田教育委員 先生方はみんなそれで本当に楽になったと思っっているとか、本当に手放しているのかと思ったりする部分もあったりして。

○荒木政策推進部長 そうですね。

○豊田教育委員 先生方がすることで意味あることでも、外から見たら、それって別に先生じゃなくてもできそうな仕事じゃないのかなというのがまだありそうな気がしたりもするんですけれども。

○荒木政策推進部長 先生によっても違うかもわかりませんね。そうですね。なるほど。

この辺も結構、先生しかできない業務と、それに代わるものとしていろいろ取り入れてきたつもりですけれども。それよりもっと深掘りしてということ。

ありがとうございます。

数馬委員、よろしく申し上げます。

○数馬教育委員

伊藤委員にしる豊田委員にしる、おっしゃっていることのなかで人の問題というのがありました。人的環境という言葉で表すと、人材を求めているわけですね。人材を求めている、なぜ育成ができないかというところをもっと真剣に考えないと、教育に携わる人、教員だけではなく、サポートしてくれる人も含めて、同じ状況が続いていくようなことだと思えます。

というのは、人材を発掘していくということに対して何をしているかということになると思いますし、それから、こういう人を求めているよということを一一般の、要するに四日市

市だけでとって、四日市市の人たちがどれだけ知っているかというところが、私は一般人としては非常に興味のあるところですよ。どのような方法で人材を求めているということを知らせているのかとか。

私はこの場にいさせていただいているのでそれが十分理解していると思っていますので、本当にいないんだな、大変だなということを実感できていますけれども、職場に帰って職場の人間に言ったら、それだけ先生が不足しているんだということを知っている人は恐らく一人もいないと思います。

だから、やはり知らしめるべきだし、もしかすると眠っている人材がたくさんいて、教員の免許はないけどこういうところまでやっていますというような人たちが現れる状況というのをつくっていくことに力を一度入れてみたらいかがでしょうかと思います。

それで果たして来るか来ないかということもありますけれども、とにかく広報だけではなく。広報って、読んでもらえているかどうかということもありますし、ホームページに載っていますと言っても、そのホームページまでたどり着くか、それからホームページが魅力のあるものになっているか。普通、さくさくパソコンをやる保護者にとって、市のホームページというのがどういうふうになっているかというようなところも含めて。

広報とホームページという、今あるものについて私は述べましたけれども、今の時代でしたらそうじゃないものも考えられると思うんです。

例えば、商品を販売します。この商品はとても売れ筋の商品で、間違いなく出ていって、新しいお客さんも増えているんだけど、すごくいいのに同じようなものでも動かないものがある。時には、その売れていく商品に、こんなものもありますよというチラシを一つ入れるだけで効果が出てくるんですね。

下世話な話で申し訳ないですけど、そういう考え方を活用していって、人の心に訴えかけるという作業をしたらと思います。人に関することはやはり人がやるということだと思っています。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

今の教育現場の実情って、市民の方はあまり。

○数馬教育委員 ほとんど知らないと思います。

○荒木政策推進部長 ご存じない方もようけみえますので、かえってそれで人材確保が滞っている面もあるかもわかりません。

○数馬教育委員 それともう一つは、同じことで四日市市という話ですけど、とにかく

地域の方たちに地域と学校とをもっと結びつける方法を考えていくというのが手っ取り早いことではないか。それが子どもを見守ることにもなるし、真ん中って、こどもまんなか社会はとても楽しいフレーズじゃないですか。そういうふう近づいていけるといいかなと。

○荒木政策推進部長 なるほど。ありがとうございます。

堀委員、お願いします。

○堀教育委員 コロナ禍で人とのつながりがという話、さっきも伊藤委員がおっしゃっていたんですけども、学校現場で私が目の当たりにしてきた中では、保護者のつながりがかなり薄れていて、学校への理解がある保護者というのはかなり減ってきたのかなと感じているところです。

P T A活動もかなり縮小されて、本当に学校に来る機会がなかったり、授業参観も時間が限られていたり、そもそもなかったりとかしているうちに、保護者間の井戸端会議みたいなものも全くなくなってしまった。学校で我が子に関する何かがあったときに、普通やったら、まず保護者間で、「こんなことあったんやけど、学校に電話していいやろか」とか、相談できる場があったはずですが、そういうのが一気に薄れてしまったというのが、同じように地域でもイベント事がことごとく縮小されて。去年今年で大分復活してきたりしなかったりというところがあって、試行錯誤の年だったのかなと思うんですけども、やっぱりつながりが薄れている中で、地域と保護者、保護者も地域ですけども、と学校が同じ一つの目的、子どもというのを真ん中に据えて、何か一緒にしていったりとか、同じ場を共有することでまたこのつながりって、ちょっとずつでもいいから再構築というか、つくっていかなあかんところなんだろうなと思ってまして。

このプロジェクト別の具体的取組一覧の部分ですけども、やっぱり教育は教育な感じがしてしまうんですね。地域と一緒にできることってもっとあるだろうし、まちづくりの部分に子どもがもっと参画できるような何か仕掛けがあってもいいのかなと思ったりもします。

保護者もですし、学校側もそうですし、地域もですけども、コミュニティスクールなんかも今全校にあるので、そういう場を上手に利用してというか使って、もっとちゃんと子どもを中心に、子どものことを考える大人が集える場所が欲しいなと思います。

以上です。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

やっぱり人と人のつながりというか、そういうところがキーワードのような意見をいた

できましたね。ありがとうございます。

最後でございますが、市長、よろしく申し上げます。

○森市長 5年前にこの総合計画をつくっているときに、重点的横断戦略プランの一番頭に子育て・教育を持ってきて、子育て・教育を大事にしていくまちにしたいなということで、そのときに教育委員会の皆さんと新教育プログラムというのをつくり上げて、ここでもいろいろ議論させてもらったんですけども、未就学の段階から一貫性を持って子どもたちを育てていくというか、向き合っていくものをつくって。まだできて数年ですけども、こういった流れというのはこれからもしっかりと続けていかなければいけないところだなというのを改めて感じているところです。

ただ、先ほどもありましたように、コロナ禍とかいろいろ状況が変わってきているところもあって、柔軟に対応していかなければならないと思います。

5年前はあんまり聞かれなかった言葉というと、ヤングケアラーというのもそこまで聞いてないですし、子ども食堂もありましたけれども一般化していないというか。だから、子どもの居場所というのがうたわれるようになってきたというところもありますし。不登校に関しても、考え方が5～6年前は違って、まず学校でしょという、学校からという考え方から、今は、行かない選択肢もあるんだよという、子どもに判断を任せるような形になってきていて。そういうところにどういうふうに柔軟に対応していくのかなと思っています。

あと、先ほどもありましたように教員不足というのは非常に深刻で、5～6年前は、倍率が減ってきたのはわかっていましたけれども、ここまでになると思っていなくて。

30人学級の見合わせというのは、私にとっても本当に衝撃的なことで、ここは一朝一夕には改善できないので、やはりデジタル化をどこまで進めていくのかというところで、四日市もかなりデジタル化を進めていこうということではいっているんですけども、やっぱりこれからのクラブ活動のあり方も含めて、学校の考え方について今まで当たり前だと思っていたやつを我々がどう変えていけるかというのが非常に重要なと思います。

クラブなんかも、最初聞くと、そんなものできるのかという感じはあるんですけども、やっていかなあかんという時代ですから、いかにやっていけるかということを我々は本当に見つけていかなければいけない。

あと、デジタル化で解消できるかどうかというのはあるんですけども、子どもたちの学び方が大分変わってきているので。私の子どもたちもタブレットを使っている学習し

ている中で、今、AIドリルなんかも出てきて、勝手に学習できるようになってきていて、いいものはどんどん使っていくということ。

あと、人間のつながりをどうデジタルでカバーできていくのかということもやっぱりあって。一方で、ホーム・アンド・スクールなんか、学校と家庭がつながれるようなツールができてきたわけで。ここをどういうふうにもっと深めていけるのかということと、いろいろ地域を回ると、1人1台タブレットは浸透していてかなり活用されかけているんですけども、学校の現場、先生方によってまだまだ格差があって、使われてないところもあるので、次の5年間は、均一な、デジタル化の水準を市内全域で上げていく必要があるのかなと思います。

あと、四日市は昨年こどもまんなか宣言を行っていきまして、やはりこどもまんなかという考え方も大事で、子どもの目線で様々なことを考えていける取組を推進したいと思っております。今は教育ですけれども、他の分野もこどもまんなかの視点を持って見直していかないといけないのかなというのは思いました。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。市長の教育に対する熱い思いを語っていただきました。

それを踏まえて、順番前後したんですが、教育長、よろしくお願いします。

○廣瀬教育長 ありがとうございます。

この総合計画であつたり第4期学校教育ビジョンを検討し始めたのが、総合計画を立てる2年ぐらい前、平成30年あたりから新教育プログラムの骨格になるものとか具体的な施策について考えてきたところなんです。それがコロナの3年間で止まってしまった、またはひっくり返ってしまったというところがあるので、令和6年の今になっては、かなり遅れた感じがするというところもあるんです。だから、伊藤委員が言われたとおり、新教育プログラムについてはバージョンアップせざるを得ない。

ただ、豊田委員が言われたように、せつかく今ようやく現場が認知し始めて、浸透しかかっているところでペースを変えると混乱するんじゃないかということもあるんですけども、私としては、ちょっとグレードアップ、バージョンアップを図らないと現状に合わないのかなと思っていますので、これが現場にご理解いただけるような形で進めたい。

ここの意図は、就学前から中学校卒業までの学びをつなげていく、連続性を担保していくということですので、反対に、途切れのない支援については、本当に市の福祉部局さんも応援してくれて、そちらは途切れのない支援はかなり通ってきたと思うんです。

学びはやっぱり学習指導要領どおりすれば本当はつながるはずですけども、現状、学年であったり校種間の違いであったりということが難しいので、その理念の共有についてももう一度、就学前から小中がつながるようなものの発信はしていきたいなと思っています。

それから、GIGAスクール構想については、この間私が校長会で私が言ったのは、例えば、年配の方々がGoogleを使う必要性を感じないという発言を学校でもされるみたいですけども、50代の方は使わなくてもいいんです。ただ、子どもたちは将来絶対にGoogleを使えないと仕事できないよと、その必要性は理解して指導してくださいと。そのためにちょっとは使えなアカンでしょという話ですけども、そのあたりをもう一度確認しながら、先ほども皆さん言われています教育に係るDXの効果的な活用は本当に考えていかないかんですし、議会からギフテッドという言葉も投げかけられているところを考えると、やっぱりICTというのは個別最適化、その子の力に応じてどれだけ学びを提供できるか。ここにもギフテッドというか、先に進みたい子どもも、いろんな発達に課題のあるお子さんも含めて、それぞれに合った学びを構築するのにどうやって有効に働けるかというのをもっと考えていきたいなと思っています。

あと、働き方改革について、やっぱり皆さん言われているとおり、地域と一体になって、学校や教師が担うべき業務とそうじゃない業務の仕分けについての理解を私たちもいろんなところで発信していかなくてはならないのかなと思っています。

そして、家庭、地域と学校が連携するものについては、やっぱりコロナで3年間止まってしまったところから、先ほど堀委員が言われたとおり再構築がようやく今年始まったところで、ここは本当に大事に進めていかなくてはいけないなど。学校と保護者、地域が一体になって、子どもを真ん中に据えて関わっていく。これは四日市版コミュニティスクールの理念でもありましたので、ここはもう一度取り組み直していきたいなということを校長会でも話させていただいているところです。

こどもまんなか社会の実現においては、こども大綱が閣議決定されたこともあって、ここの中に、ライフステージを通して縦断的に実施するという文言もあります。

総合計画のところには、就学前とか市民であるという言葉が使われているんですけども、そこに学童期、思春期、青年期、こども大綱ではそういったライフステージごとの重点事項が組み込まれていますので、ぜひ市民の中に学童期と思春期、青年期というところを言っていたいですね、子ども・若者への支援であるとか、子ども・若者が活躍できる場の

提供というところをもう一度総合計画の見直しの中で加えていただけると大変ありがたいと。

要は、この数年間でいろんな経済上の格差も生まれてくる中で、子どもや若者の体験格差が確実に広がっている。スポーツ好きなご家庭はスポーツを小さい頃からどんどんさせますし、芸術に造詣があるところは鑑賞に行ったりする。または、本がたくさん家にあるおうちとそうじゃないおうちでは読書活動やら読解力に影響がある。そういったものもあります。行政がどこまで面倒を見るかというのは課題がありますけれども、そういった体験の機会の格差をできる限りならしていけるような施策を教育委員会も一緒になってやりたいと思いますので、ぜひ重点的横断戦略プランの中で展開していただけるとありがたいと思っています。

予算につきましてもたくさんいただいておりますので、我々、予算をいただいたものについて、結果を伴うように頑張ってもらいたいと思っております。

よろしく申し上げます。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます

教育の面では、新教育プログラムのバージョンアップであるとか、結構見直すべきところは多々あるということですね。わかりました。

ありがとうございます。

あと、全般を通して、これを言い忘れたとか、あるいは今後5年間のキーワードとかについてご意見あれば、再度お伺いいたしますが、よろしいですか。

○森市長 新しいことではないんですけども、かねてから子どもの体力というのが結構課題の部分があつて。

学校での運動とか、工夫して各学校でやってもらっているんですけども、このグラフを見ると、コロナ禍で下がってきて、今ちょっと上がっているのかもわかりませんが、とりわけ中学生の女子ですね。全国的な下げトレンドにある中、これをどういうふうに戻していけるのか。しかも、クラブ活動が昔よりも休みの日を設けたりとかして頻度が下がってきて、あと、任意加入という状況の中で、どうやって体力を戻していけるのかというのは、現場の先生方にまた頑張ってもらいたいですし、何か、方針とか取組ができるものがあればいいのかなと思いますけどね。

○荒木政策推進部長 この参考資料のグラフはすごい下がり方です。中2女子のところは急激に落ちていますよね。この辺はやっぱりクラブ活動の影響ですかね。

○廣瀬教育長 部活動のガイドラインができて、週2回休みを入れるというところで、全国的に、型にはめて活動しない子たちの運動が、運動に自ら触れない子たちの活動時間が確実に減ったという証拠だと思います。

特に筋力が弱い子たちについては、動かなければすぐ落ちてしまいますので。運動能力とか体験が少ないと落ちるので、それがきめんに現れているなどと思います。

やっぱり体育の授業を中心として子どもたちが体を動かす機会。そして、それが気持ちいいとか心地いいとか楽しいといった機会を何とか与えていかないといけないなどは思っていますので、ここはもうちょっと工夫して、下げ止まりを何とかしないといけない。下げ止まりというより、運動すること自体に意義を感じるような、そんな仕掛けが要るのかなと。

○荒木政策推進部長 コロナ禍もあってこの辺が加速したとも考えられますけれども、すごい課題だなという感じがしますね。

ありがとうございます。

○伊藤教育委員 運動については、四日市はもともとあんまり高くなかったところもあって、大分前からいろんな工夫をしてプログラムをつくったりして進めてきていて、それがちょっと効果は出てきている。一回やって、なかなかうまくいかなくて、それをさらに練り上げて上げていただいたという感覚があります。

授業でのことはやはり一番基本ではあると思うんですけど、やはり日常化、習慣化ということが、子どもたちの家庭も含めて進めていけるかというところがもう一つ大きな課題というか、視点やと思う。

○荒木政策推進部長 授業をきっかけとして、日常化していく。

○伊藤教育委員 きっかけとか、運動することが楽しいとか、興味関心が高まって、そしてそっちに挑戦していけるというようなことがあるとか、そういう機会がある、場があるということが非常に大事なことです。このあたりの子どもたちの動機づけとして、いろんな働きかけもあるでしょうけれども、そういう環境づくりはしていかないと。やれと言ってやれるものでもないと思いますので。

○森市長 全国平均より高いというのは、皆さん頑張ってもらっている証拠ですけども。

比べるところがそこでのいいのかというのも、全体を見ると、もうちょっと全国的に頑張らないといけないですけど。

○豊田教育委員 例えば、下の「スポーツ好きですか」というのが、顕著ではないんですけども、四日市は好きと答える方向に上がりつつあるので。

体が、例えば体力のテストとしてそれに反応してきているかという、単純にそういう見方でいいのかどうかは問題かとは思いますが、気持ちはそういうふうになんとか、先生方の関わりなり何なりで上がってきているので、これが実に結びついて、もっと動けることとなると、もっとこれが上がる可能性があるのも、その気持ちが上がりつつあるところをうまくひっかけられれば、体力のラインがもっと上がってくるのかなと。全国平均よりは体力のラインも高いところにいるので、そこがうまく結びついていける。このラインは先生方の頑張りかなと見えるんですけど。

○荒木政策推進部長 そうですね。大きな課題というようなことで、現状分析していただいて。

あと、ほかにどうですかねご意見。よろしいですかね。

もし言いそびれたということがあれば、また後でお伺いします。

3 小規模特認校制度の導入について(報告)

○荒木政策推進部長 時間もございますので、2つ目の項目にいかせていただきます。

2点目の、小規模特認校制度の導入について報告させていただきます。

資料の説明をお願いします。

○森教育総務課長 失礼いたします。教育総務課の森でございます。どうぞよろしくお願いたします。

2つ目の、小規模特認校制度の導入についてということで、資料は、引き続き横型のものでございます。よろしくお願いいたします。

この件につきましては、市長ないし教育委員の皆様方にも都度ご報告させていただいているところでございますが、今年度の動きを中心に、改めてこの場を借りてご報告させていただくものでございますので、どうぞご承知おきください。

まず、資料の(1)でございます。水沢小学校の児童推計値の現状ということで、これも今までご覧いただいたことがあるかと思いますが、令和5年度、赤囲みの現状に続きまして、右側に進みますと、このまま令和9年度、2年生、3年生で黄色い色のセル、ここが複式学級が発生するかもという可能性が、かねてからの推計値でも検討されておるところでございました。

そこで、私ども、コロナ禍も踏まえまして、国も併せて、小規模になっていて、すぐさま小規模を統廃合に結びつけて進めていくのではなく、小規模のよさないしは地域の実情

等々も踏まえまして慎重に検討していくべきじゃないかという国の動きがございます。

そのような中で、例えば地域コミュニティの核としての性格を持つ、まちづくりにおいて極めて重要な役割をしている学校をいかに存置していくかということも踏まえて検討を進めてまいっておるところでございます。

またあわせまして、水沢地区におきましては、都市整備部ないしは商工農水部も合わせてまちづくり、産業の振興ないしは居住人口の誘導等々につきましても、市を挙げてまちづくりについて取り組んでおるところでございます。

そのような中、改めて小規模校においては、1つの行政区には最低1つの小学校を存続させることが望ましいのではないかというようなところ、また、水沢小学校に限らずですけれども、小規模校になった場合に、直ちに統廃合をせず、強みを生かした特色ある学校づくりということで、その方策といたしましては、オンラインを活用した遠隔授業、ないしは学校間をバスによって移動して合同交流授業という方法。ないしは小中一貫教育に近づけるような学びの一体化というような施策も私ども取り組んでございますが、そのような小中一貫の試み、ないしは、先ほど来もいろいろお話を頂戴しております地域とともにある学校づくりを基盤とした教育活動の充実等々で、コミュニティスクールとかの仕組みも生かして、地域の方、関係者の方も学校づくり、子どもの見守りに一緒になって取り組んでいただくということが大事だよねというようなことを考えております。

そのような中で、(2)にまいります。今年度に入ってから導入に係る経過等も、はしよってですが説明させていただきます。

今年度に入りまして、昨年度来からの検討に基づきまして、7月に第1回水沢小学校のみらいを考える会を開催させていただきました。ご出席いただいているのは連合自治会長はじめ、地区社協、地元関係者、PTAの方々等々保護者代表も入っていただいておりますが、その中、令和7年度より小規模特認校制度を導入する方向で進めていくというようなことも御意見賜り、確認されました。

そのためには、7年度めがけての話になりますと、6年度中には制度利用者の募集を行う。すなわち、制度設計を1年先立った令和5年度中に行う必要があるというようなことを頂戴しております。

一方、8月から9月にかけて、小学校ないしは保育園のPTAの役員会、地区の自治会長会議、市全体の会議体ですが学校規模等適正化検討会議ないしはこちら教育委員会会議ということで、報告と説明を行ったところでございます。

以降、9月になりますと、第2回みらいを考える会。その場では、制度設計に当たって運用のルールづくりとかPRについても、地域や保護者様のご意見を種々賜ったところがございます。具体的には、10月に入って公立小中学校長会はじめ、公立・私立の保育園、幼稚園、こども園の園長会にもお邪魔に上がって説明させていただきました。あわせて、10月下旬ですが、市の教育民生常任委員会協議会でも報告させていただいた後、水沢小学校のPTA役員会、もう1つは水沢小学校の全保護者対象の説明会というのも、この短い間に2回ほど開催させていただき、丁寧な説明に努めさせていただいたところがございます。以降、新聞報道とかもございました。教育委員会議を経て、今に至ってございます。

以後、12月になりますと、第3回みらいを考える会を開催いたしまして、この中では、小学校の教育方針にご賛同いただき、子どもさん、保護者の方がおいでいただく、ないしは地域やPTAの協力も前提条件としてあることから、小学校のよさないしは特色をどうやって認めて、どうやってPRしていくのかというようなことも話題の中心として進めていただいたところ です。

その中で、少人数のよさや強み、地域資源を活用した教育活動、水沢地域の子どもさんに対する見守りや温かさ、ここら辺について、既存の広報だけでなく、見学や体験を通して、ぜひ実感として伝わる仕掛けを考えていってはどうかというようなご意見を賜りました。

以降、12月に入りますと、四日市学校規模適正化検討会の委員さんということで水沢小学校をご覧いただいたわけですが、具体的には、適正化の検討会議委員であります。日程調整上、別段の日付でご覧いただいたお二人、四日市市自治会連合会の正副会長さんがおいでいただいて、比較的通常の状態に近い水沢小学校の子どもさんの状況をありのままにご覧いただいたところがございます。

その中で賜ったご意見としては、非常に伸び伸びした姿を見られてよかった。一方で、大人数の中で切磋琢磨して行く機会も必要。いろんな場に出ていって経験値をぜひとも積ませてほしいというご意見とか、極めて密度が高く、誰も取り残されない教育環境の提供に、教職員の方々が本当に熱心に取り組んでおられるということで感銘を受けておられました。前提条件として地域からのバックアップが必要だし、こういった高密度な教育が水沢小学校で受けられるということを改めて発信していくことが重要ではないかというご意見も賜りました。

(3)にまいります。小規模特認校制度実施要項の概要ということで、いろんなルールづくりを私ども検討しておりますが、主だったところでは、就学条件についてということで、

こちらに上げていただいているようなことをただいま進めております。

対象者としては、市内の新入学ないしは市内の他校から転学をされるような子どもさん。時期については、原則毎年新学期、新年度、1学期ということでございます。就学の定員は、各学年若干名ということで、小学校の教育環境が充実するようなことが大前提でございますが、募集人数については、年度毎に検討していきたいというようなことで今のところ考えております。

もう1つは、ここがPRの方法ともつながるんですが、漏れのないPRとともに、できるだけミスマッチのないようにということを考える中で、制度利用の申請をしていただく条件といたしましては、水沢小学校の日頃の授業や日頃の施設の見学ないしは体験入学を、1回あたり1週間程度組み入れてはどうかということを進めてございます。これについては、9月頃に期間を設けて、複数日の体験を実施する予定でございます。

なお、もう1つ、水沢小学校を卒業されて中学校に進学される場合はどうやろうというようなことも考えてございます。本来校、すなわち在住地区にある学校に戻ることも、せっかく友達もできていろんな関係性も構築できて、そのまま西陵中学校へ進学していただくことも、本人方の選択でもって決定していただくことが可能というようなことも今のところ考えてございます。

なお、参考といたしまして、こちらの表でございますが、令和6年度、来年のスケジュール予定ですが、年度が替わりまして4月ないし5月で大々的にPRをしていって、市長の会見はもとより、広報よっかいち、チラシの配布というような段取りで進めてまいります。

随時周知広報ないしは問合せの対応もし、見学・体験、最終的にいろいろな制度ないしは環境をご存じいただいた上で正式に申し込みをいただくという前で面談。これは、校長先生と保護者ないしは子どもさんとの面談ということも踏まえまして申請をいただき、審査、就学決定という流れを進めることを今のところ考えておるところでございます。

駆け足でしたが、小規模特認校制度の導入についてということで、現状のところ、今年度の動きを報告させていただきました。

どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

時間も押しておりますが、一言ずつ、事務局の説明に対してご意見いただければと思います。

堀委員からお願いします。

○堀教育委員 令和7年度からということですがけれども、途中入学というか転校という形となると、やっぱり今の学校が合わないな、もっと少人数でやりたいなという子になってくると思うので、どうなんかなというところはあって。広報的に力を入れるべきは、やっぱり今から小学校に入る子たちが選択肢として当然のように自分が行くだろうと思っていた小学校だけじゃなくて、私学があるような感じで、水沢も受け入れてくれるんや。これもいいよね、少人数でいいよね、手厚いよねというのがわかるように。本当に必要な人にだけじゃなくて、そんな選択肢があるんだよと風の噂で走るぐらいに周知されるべきなのかなと思います。

水沢に通う子と同じ幼稚園に行っている子とか同じ保育園に行っている子が、本当は学区は違うけれども、幼稚園で仲よかったお友達といっしょに行けるんやったらみたいなお子ももしかしたらいるのかなと思いましたので、幼稚園とか保育園にもっと広報をすることや、四日市に限らず、もしかしたら菰野町なんかにも声をかけたほうがいいのかなと思いました。

これ、菰野から通うことはできないんですよ。そうですね。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

数馬委員、お願いします。

○数馬教育委員 今の堀委員の御意見のところを強く感じておりました。なので、やはり知らせることがどれだけできるかと思います。

○荒木政策推進部長 周知ね。ありがとうございます。

豊田委員。

○豊田教育委員 私もそういうところかなと思います。

あとは、水沢って四日市の中でも山の中にあるところなので、そういう環境の大変さも、通っていただくのにはちょっと大変なところもあるので、メリット・デメリットをしっかりとお伝えいただくことが大事なのかなと。少人数でいいですよとか、自然に恵まれていいですよという、そこだけふわってなっちゃうけれども、やっぱり子どもが本当にそこで学ぶことの意味というのがあるかということがわかるような広報の仕方というか。

水沢としたら、来ていただいて、水沢地区に学校が存続して子どもたちの声が聞こえるというのが大事かなとは思いますがけれども、もともと水沢にいる子どもたち、来ようかなと考えてくださる親御さんの意思が先に走るのかなとは思いますが、そういう中で、い

いところも悪いところも、入学を考える中での情報提供がしっかりとなされないと、ミスマッチになってしまうといけないので。せつかくすることなので、うまくそれが走るようにしていただくことが大事かなとは思っています。

○**荒木政策推進部長** ありがとうございます。

伊藤委員、お願いします。

○**伊藤教育委員** 小規模特認校をこうやって始めるということで、やはり一定の成功させたいという思いがあるんですけども、いわゆる保護者にとっては本来校区というのがあって、それをおいてまで水沢に行きたいという思いにどういう面で立てるのかというところが大きいと思うんです。

いろいろ条件は厳しい部分があります、正直。公的な交通機関の問題ということは、ほかの全国的なあれでも、そういった条件がクリアできたら成功、決行できますということも出ていると思うんですけども、水沢はそういう部分でちょっと厳しいなと思うことがあるんです。やはりそういう特色という部分の、3つ書かれていることをきちんとわかりやすく、魅力を感じていただけるような。よさを感じていただいて、この学校で学ばせたいなと思われるような方向の、先ほども出ていました情報発信ということが非常に大事になってくると思います。

水沢の場合、3つ目にあるような地域とのつながりとか。地域を挙げて学校を支えるというのは非常に重要な要素である。特にこの場合はそのあたりが必要というか、かなり大事だということを言われると思うので、そのあたりは、この前も訪問させてもらったときに、水沢はそこはばっちりいける土壌があるんだなと感じさせてもらったんですけども、やはりそのあたりを感じてもらえるのも、子どももあれだし、地域も受け入れていただけるというような安心感をもって進めて、入学してこの学校に通わせたいなと思わせるような情報発信をぜひお願いしたいなと思います。

○**荒木政策推進部長** ありがとうございます。

教育長、お願いします。

○**廣瀬教育長** 小規模特認校については、少人数のよさをどう生かしていけるかが鍵になっていくので、ここをどうやってアピールするか。それから、水沢というロケーションとか地域の資源を活用した教育のアピール。

水沢小学校さんは、四日市版コミュニティスクールを進めておるところ、制度化した3つの、中部西、八郷小、中部中学校の次に自ら手を挙げてくれた学校です。これは当時の校長

先生が、水沢で暮らして水沢で人生を送っていくために、または一回出て戻って来てもらえるような子どもをどうやって育てていくかというのを地域と本当に追求してきた校長先生でして、その取組が今もずっと残って生きているので、ここをもう一度クローズアップして、水沢小学校区以外の人たちに見えるような発信をどうしていくかというのが課題であると思いますけれども、本当にこのモデルについては成功させたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

最後、市長お願いします。

○森市長 私、水沢ですので、主観も入ってしまいますが。

ただ、四日市の子どもたちにとって選択肢が1つ増えたというのはすごくいいことだなとは思いますが。それがどうマッチしていくかというのがこれからだと思いますし、やはり初めての取組ですので、いい形でスタートさせていきたいと思っています。

水沢地区の人も、結構人口減少を深刻に捉えていて、様々な取組をしようとしているので、子どもたちとそういった地域の方が、今までもかなり密接でしたけれども、よりもっと一体となってまちづくりのことを考えていってもらえたら。地区外であろうと、こういう社会の課題を解決していけるような、そういう形ができればいいのかなとは思っています。

まだ初めてですね。

○荒木政策推進部長 そうですね。手探りでございますけれども。

○森市長 しっかりと、何とかスタートできるようにと思っています。

○荒木政策推進部長 ありがとうございます。

皆さんに貴重なご意見いただいたと思っています。

本日いただいたご意見を参考に、事務局で整理の上、取組を推進していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

4 その他

○荒木政策推進部長 時間も押していますが、ほかに、全般を通してでも構いませんが、何かございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日はこれで会議を終了させていただきたいと思っております。

次回でございますが、次回は来年度に予定してございます。

本日は活発なご議論誠にありがとうございました。